

ワールド・ミュージックの館

～峰万里恵と仲間たち～

第4回

詩人 ヴィニシウス

～ブラジルのうた～

峰 万里恵(うた)

齋藤 徹(コントラバス)

喜多 直毅(ヴァイオリン)

高場 将美(ギター、話し)

2012年5月26日

cafe&space
ポレポレ坐

ヴィニシウス・ヂ・モライス Vinicius de Moraes

● 1913年10月19日、ブラジル、リオデジャネイロに生まれる。父は公務員でアマチュア・ギタリスト。母はアマチュア・ピアニストだった。● 11才、イエズス会の学校に入る。合唱団に参加、また小さなお芝居をつくる。● 14才、タパジョイス兄弟(プロの歌手)と友達になり、ギターを覚え、作詞作曲(28年に初出版、録音)、また友人のパーティなどでうたった。● 大学に入り、現代詩人たちと友達になり、文学にめざめる。法学と社会学を専攻し、33年卒業。● この年に初の詩集『距離のための道』を刊行。● 36年、文化・厚生省に就職、映画審査官の仕事につく。● ブリティッシュ・カウンシルの奨学金を得て、オクスフォード大学に留学、英語と英文学を学ぶ。● 41年、帰国して、新聞の映画評論家になる。● 43年、外務省の試験に受かり(前年は落第)、外交官になる。ロサンゼルス(USA) 副領事となり、ハリウッド映画界をのぞく。● 50年、父の死で帰国。その後、パリとローマで外交官をつとめる。● 56年、歌と音楽入りの戯曲『オルフェウ・ヂ・コンセイサオン』を発表。この機会に、13才年下の作曲家・ピアニスト・編曲家 トム・ジョビンを知り、親友になる。(この戯曲は後にフランス人マルセル・カミュ監督が映画化し、ヴィニシウスも協力したが、できあがった映画は大嫌いだった) ● 同年、ヴィニシウス＝ジョビン作品集を、女性歌手エリゼッチ・カルドーゾがうたって録音。その中の『シェガ・ヂ・サウダーヂ(想いあふれて)』は、歌詞・作曲編曲、ジョアオン・ジルベルトのギターのリズム奏法があいまって、初の「ボサノヴァ」スタイルとされる。● 57年、ウルグアイの首都モンテビデオで外交官勤務(3年間)。● 60年、ジョビンのレコードに参加して初録音。● 62年、ショー『出会い』に、ジョビン、ジルベルト、オス・カリオーカスと共演。正式なステージ活動の最初。ここでの新曲『イパネマの娘』は、のちに世界的スーパー・ヒットとなる。● ジョビン以外の若い作曲家に歌詞を提



供、次々とヒットして、広く知られる有名人になる。● 68年、軍事政権により、外務省から退職させられる。この辞令が出たとき、リスボン(ポルトガル)で、シコ・ブアルキ、ナラ・レオンと公演中だった。ポルトガルも元ナチスの仲間の独裁政権だったので、危険な状態だったが、ヴィニシウスは劇場の裏口から逃げないで、正面から出て、集まっていた若者たちに、大きな声で詩を語った。

「わたしは、朝に 暗くなる。 昼に わたしは午後になる。
午後には わたしは夜になる。 夜に わたしは燃える」

●70年、リオのカネカオン劇場で、詩人のこれまでの足跡をたどるショーを上演。共演は、ジョビン(ピアノ、歌、編曲指揮)、トッキーニョ(ギター、うた)、ジョビンの妻だったミウーシャ(うた)。大好評で1年間のロングランになった。●71年から、トッキーニョとの共演を、生涯の最後までつづけることになる。女性歌手マリーリア・メダリーヤとともに、全国の大学キャンパス・コンサート・ツアーで、観客延べ10万人。他の女性歌手と交代したりして、外国でも公演。●1980年7月8日、自宅でトッキーニョと、自作アルバムの打ち合わせ中に疲れたからと風呂に入り、深夜過ぎにバスタブで呼吸困難になっているのをお手伝いさんが発見、眠っていたトッキーニョも飛んできて手当てしたが、朝にならないうちに亡くなった。●一生で9回、正式に結婚。趣味(?)はタバコとウイスキーだった。

<I>

1. ラメント (哀歌)

Lamento

作曲：ピシギーニャ Pixinguinha

ピシギーニャ(フルート、後にサクソ奏者/編曲指揮者)は、ブラジル音楽の永遠の最高峰のひとつ。《ショーロ(泣き)》と呼ばれるブラジル独自の器楽のスタイル・感覚に生きた音楽家です。この曲は、1928年に彼のバンドで録音されました。ずっと後に(62年)、映画『泥の上の太陽』に使うために、ヴィニーシウスが作詞。それによって広く知られ、愛されるようになり、歌なしの演奏用の曲としてもスタンダードになりました。

モレーナ、あなたには悩みがある。でも わたしの哀歌をお聴きなさい。わたしは 自分に忘れさせようと むなしい努力をしている。でも ああ わたしの苦悩は大きすぎて、わたしは涙の中に生きる。こんなに不幸なわたし、これより悲しいものはない——わたしのいいひと——わたしがあなたにつくった あのショーリーニョ(軽快なリズムのショーロ)より……

ひとりぼっちのわたし、モレーナ、あなたにはもう悩みはない。ああ わたしの愛するひと、わたしはこんなにひとりぼっちになった。あわれんで、わたしをあわれんでください。なぜならわたしがこのように悲しいのは あなたの愛ゆえなのだから。この世界に これほど美しいものはない、あなたゆえのわたしの愛情よりも。

わたしの愛するひと、わたしを あわれんで。わたしの愛する人、わたしを あわれんで……。

2. アペーロ (嘆願)

Apelo

作曲：バーデン・パウエル Baden Powell

バーデン・パウエル(ポウウエル)は、ブラジル・ギターの集大成と評される巨匠です。子どものころから、超絶名手として知られ、ナイトクラブや裏町の酒場など、ありとあらゆるところで、歌い手の伴奏やグループのメンバーとしてプロ活動。やがて、良い先生について音楽理論を研究し、作曲家としても才能を発揮しました。

ヴィニーシウスとは、62年に合作をはじめました。いろいろなスタイルで作曲しましたが、この曲などは、伝統的なセレスタ(セレナータ)のメロディの感じます。

ああ わたしの愛、行ってしまわないで。人生をごらん、どんなに泣いていることか。ごらん、この歌の悲しいことを。

いけない、わたしはあなたに頼む、いなくならないで——だって いまあなたが 感じている痛みは、許しの中でしか忘れることができない。

ああ！ わたしの愛するひと、わたしを許して。だっていまだに わたしがひきおこした悲しみが、あなたを痛めている。

わたしはあなたに嘆願する、こわさないで、あなたのものであるこんなにたくさんのことを。もうわたしがつづなつた 悪いことのゆえに……

ああ！ わたしの愛するひと、あなたに知ってほしい、わたしが泣きながらあなたにする祈りの中にある 数々の悲しみのことを。

もしもあなたが、ただの一瞬でも、すべての後悔を知ったら。どのようにすべてが悲しくなったかを知ったら。もしもあなたが さよならの一言も言わずに去ったのを、わたしが知ったことが、どんなに悲しいことなのか 知ったら——

ああ、わたしの愛、あなたは帰ってくるだろうに。そしてふたたび倒れこむだろう、泣きながら、わたしの両腕の中に。



3. イタプアンの午後

Tarde em Itapuã

作曲：トッキーニョ Toquinho

トッキーニョ（ギター、うた）は、ヴィニーシウスの最後の時期に、いつもいっしょに演奏活動、合作した、彼より33年才年下のアーティストです。コンビは、1970年ごろ生まれ、このサンバは、いちばんヒットした曲のひとつでしょう。

イタプアン（Itapoan などとも書く）は、ブラジル北東部サルヴァドール市（バイア）の郊外のビーチです。

昔からはいている水着のパンツ、ダラダラするにはいい日より。海にサイズはない。宙には虹がひとつ。カシミ海岸にいたあとで、からだに怠け気分を感じる。そして 小枝で編んだ敷き物の上で、ココナッツのジュースを飲む。

いい気分……イタプアンで午後に過ごす。イタプアンに燃える太陽の下。イタプアンの海を聞く。イタプアンで愛を語る。

海が ひとつの真新しい緑色を 披露しているあいだ、甘い気持ちで議論する、カシャーサをビンから飲みながら。そして 空と海の出会いのなかに、まなざしを置き忘れてきてしまって、とつてもゆっくりと 感じている、大地がすべて転がってゆくのを。

そのあとで 夜が運んでくる風の寒気を感じる。そして ココナッツ林から生まれてくる やわらかなざわめきを。そして きのうちも明日もない 静まった空間の中で、褐色の両腕に抱かれて眠る、イタプアンの月の両腕に……。

いい気分……イタプアンで午後に過ごす。イタプアンに燃える太陽の下。イタプアンの海を聞く。イタプアンで愛を語る。

4. まずしい人々

Gente humilde

共同作詞：シコ・ブアルキ Chico Buarque
作曲：ガロート Garoto

ガロートは、ブラジルのギター史上（クラシックもポピュラーも含めて）最高峰の名手のひとりです。ギターの仲間の楽器はなんでも——カヴァキーニョやバンドリンも——完璧に弾きました。この曲は、彼があるとき、ブラジルのどこかの街の、いわゆるスラム街の風景に深く感動してつくった、ギター独奏用のエチュード（練習曲）です。ただし公表せず、自分で録音してみただけでした。その録音を手に入れて感動したバーエン・パウエルが、ヴィニーシウスに伝えて、作詞を依頼しました（曲を多くの人に知らせるには、なんと

いっても歌がいちばんですから）。もうガロートの死後15年たっていました。

ヴィニーシウスはローマにおり、やはりローマに来ていたシコ・ブアルキに、歌詞の半分を担当させて、歌曲としてこの曲が生まれたというわけです。1970年代初めのことです。

わたしが わたしの人々のことを 思ってしまう日がある。そしてこんな風に わたしは胸のすべてが締め付けられるのを感じる。なぜなら わたしが生きたいという欲望のようなものが、とつぜん起こったように思えるのだ、わたしの気づかないうちに。

わたしが町外れを通り過ぎるときの気持ち——わたしはとても楽なもの、電車に乗って、どこかからやって来た……。そして そこで わたしはあの人々への羨望のようなものにとられる——頼れる人もなく、正面に向かってゆく人々。

素朴な家たち。歩道に椅子が出ていて、正面の入り口には、上のほうに そこが家庭だと書いてある。ベランダには、悲しい ほったらかしの花たち。もたれかかる場所のない 喜びのように。

そしてそこで わたしの胸には悲しみが宿る、わたしが闘うすべをもたない 口惜しさとなって。

そして 信じないわたしが 神に願う、わたしの人々のために——それは貧しい人々。どれほどの泣きたい思い！

5. ユリディスのワルツ

Valsa de Eurídice

作曲：ヴィニーシウス・ヂ・モライス
Vinicius de Moraes

戯曲『オルフェウ・ダ・コンセイサオン』のために作曲されたワルツです。歌詞もあとから、もちろん本人が書きましたが、きょうは、喜多直毅（ヴァイオリン）と齋藤徹（コントラバス）の演奏でお聴きください。

6. ヒロシマのバラ

Rosa de Hiroshima

作曲：ジェルソン・コンラヂ Gérson Conrad

1970年代の初め、短期間の活動でしたが、仮面のメーキャップやボディ・ペインティングで訴えた3人のグループ《セコス・エ・モリャードス》（歌手ネイ・マトグロッソ）がブラジル音楽に新しいエネルギーを注ぎこみました。この曲は、彼らの最初のレパートリーのひとつで、メンバー（歌手、ギタリスト）が作曲しました。詩は、1950年代に書かれたものでしょうか？ すでにヴィニーシウスの自選アンソロジーにも掲載されました。

思っごらんない 赤ちゃんたちのことを／口がきけず テレパシーをもった赤ちゃんたち／思っごらんない 女の子たちのことを／目が見えず 不確実

な女の子たち／思っごらんない 女たちのこと／
こわれて 中身を取り替えられた女たち／思っごらん
ない いくつもの傷のこと／熱いバラの花たちの
ような傷／でも おお 忘れないで／バラのバラのこ
とを／ヒロシマのバラのこを／遺伝性のバラ 放射
性のバラ／おろかで 体が動かさない／肝硬変をも
ったバラ／原子の「反＝バラ」／色なく 香りなく／
バラなく なにもなく。

7. わたしは あなたなしには存在しない

Eu não existo sem você

作曲：トム・ジョビン Tom Jobim

ジョビンは、さまざまな面で現代ブラジル音楽の創始者といえるでしょう。時代は彼を求めていました。ヴィニーシウスとの出会いも運命だったんでしょうね。

わたしは知っている、あなたも知っている、人生がこう望んだのだということ。この世界のなにもものもわたしからあなたを連れて行かないだろう。

わたしは知っている、あなたも知っている、距離というものには存在しないことを。すべての偉大な愛は 悲しいものだったときだけ ほんとうに大きいのだということ。

だから わたしの愛するひと、くるしむことをこわがらないで。だって すべての道たちは わたしにあなたに向かう道をたどらせているのだから。

こうして 大海が 月の光があるときだけ美しいように、こうして 歌が 人にうたわれるときだけ 理由をもつように。こうして 雲は 雨が降るときだけ あらわれるように。こうして 詩人は 悩んでいる人間であるときだけ偉大であるように。

こうして 愛をもたずに生きていることは 生きていることではないように。わたしのないあなたは無い。そしてわたしは あなたなしには存在しない。

<II>

1. わが祖国よ *Pátria minha*

ヴィニーシウスの詩です。朗読（高場 将美）でお聴きください。

わたしの祖国は そうではないようなもの。それは 肌の触れ合う甘さと 泣きたい思い。眠っている赤ん坊がわたしの祖国。だから、亡命の中で、わたしの息子が眠るそばにいて、わたしは祖国への数々の想いに泣く。

わたしに、わたしの祖国はどんなものかとたずねられ

たら、わたしは言おう——知りません。本当に知りません、わたしの祖国が どのようなものか、なぜなのか、いつなのか。——でも知っている、わたしの祖国は光と 塩と 水。それらは わたしの悩みを昇華し 液化し 長い、にがい 涙にする。

わたしの祖国の両目にキスしたい思い、抱き上げて手で髪に触れて……。わたしの祖国のドレスの色(黄金と緑色!)あの みにくい色を変えたい思い。わたしの祖国は靴もはいていない、靴下もない、わが祖国、こんなにびんぼう。

なぜなら おまえを愛しているのだから、わたしの祖国よ、祖国のないわたしが。わたしは 風から生まれた種。わたしは行かない、わたしは来ない。わたしはとどまっている、時の痛みとの接触によって。わたしは、行動と思考をつなぐ要素。わたしはすべての「さよなら」の空間の 見えない糸。わたし、神のない者!

.....

わたしは、またおまえに会いたい、わたしの祖国よ。そしておまえに会うために わたしはすべてを忘れた。わたしは目が見えず、つまづいてばかりいて、耳が聞こえず、口が聞けなかった。わたしは、自分のまずい死を正面から見た。わたしは、数々の詩を、女たちを、数々の地平線を引つかれた。わたしは単純なものになった、泉をなくした。

わたしの祖国……わたしの祖国は屋根に乗った花壇ではない、由緒ある紋章をひけらかすこともない。わたしの祖国は、道たちの荒れ野。わたしの祖国は、渴いている土地と白い浜辺。わたしの祖国は、幾世紀のよわいを経た大きな川、それは雲を飲みこむ、大地を食べる、そして尿が海になる。

.....

わたしは風の上に耳を置き、そよ風を聴く。それはおまえの髪の中で遊び、おまえをくしげずる、わたしの祖国よ、そしておまえの道を香らせる。

わきあがってくる 眠り込みたい思い、おまえの甘い丘たちのあいだで、わたしの祖国よ、おまえの体内にある飢えに気をくばって、そして おまえの心臓にある太鼓のリズムに。

おまえに名を言うまい、わたしの祖国よ、おまえの名前は「いとしい祖国」、かわいい祖国、「やさしき母」とは韻が合わない。おまえはわたしの中に生きている、ひとりの娘のように。おまえは、とある愛情の島だ。その島は

——ブラジル、たぶん。

いまわたしは、友だちのコトヴィーア(ヨーロッパの、いい声の渡り鳥)を呼ぼう。朝に鳴くナイチンゲールに頼んでもらおう、それがサビアー(ブラジルのいちばん親しまれている、いい声の小鳥)に頼んでくれる。おまえに、至急、この鳥の電報をとどけてください。「わたしの祖国へ、おまえを愛する者からよろしく。ヴィニーシウス・ヂ・モライス」

2. あなたとわたし

Você e eu

作曲：カルロス・リラ Carlos Lira

ジョビンとの共同の歌づくりで成功したヴィニーシウスは、他の若い(したがって無名の)音楽家たちにも歌詞を書くことにしました。最初に依頼してきたのがカルロス・リラです。ギターをもってヴィニーシウスの自宅に行き、そこでメロディを録音する——という作業(?)システムでした。

わたしに電話をしてもいい、わたしに言えばいい、頼めばいい、そして悪口を言ってもいい。仲が悪くなる、それは悪いことではない。

準備すればいい、月光の下で百万回のパーティを。わたしは行かないでしょう、頼まないほうがいい。わたしは行かないでしょう。行きたくないんです。

そしてまた わたしを不審がればいい。ニコニコしてもいいですよ、泣いたっていいですよ。そして想像したってかまわない、あなたがたの いちばん好きなように。

言いふらしてもいい、わたしが生きることに疲れていると。かつてのわたしを知っている人には とても残念なことだと。……わたしはそれ以上のもの。あなたとわたし。

3. インセンサテース

Insensatez

作曲：トム・ジョビン Tom Jobim

ジョビンの音楽嗜好は無限大でしょうが、ショパンも大好きだったようで、この曲は彼のピアノ・エチュードのメロディによく似ているそうです。

ああ、あなたがやってしまったインセンサテース(思慮のないこと)、まったく思いやりのない心。あなたは 痛みで泣かせた、あなたの愛を、あんなにこわれやすい愛を。

ああ、どうしてあなたは そんなふうに薄っぺらだったのか、そんなふうに冷淡だったのか。ああ、わたしの心、いちども愛したことのない人は 愛され

ることに値しない。

行け、わたしの心、理性の言うことを聞きなさい、ただ誠実さだけを使いなさい。風の種をまく人は——理性が言っている——いつも嵐を刈り取ることになる。

行け、わたしの心、許しを請いなさい。くるしい情熱の許しを。行け、なぜなら 許しを請わない人は決して許されることはないから。

4. シェガ・ヂ・サウダーヂ

(想いあふれて)

Chega de saudade

作曲：トム・ジョビン Tom Jobim

サウダーヂには、郷愁の意味も含まれますが、ここにはないもの、失ったものを愛する悲しい気持ちのことです。そんな想いは、もうたくさんだ、という意味のタイトルです。

行け、わたしの悲しみ、そして彼女に言うておくれ、彼女なしには なにもあり得ないと。言うておくれ、祈りながら、彼女が戻ってくるように。なぜならわたしは もうこれ以上くるしむことはできないから。

サウダーヂ(さびしい思い出)なんかもうたくさんだ。現実には 彼女なしには安らぎはないこと。美しさもない、ただあるのは悲しみとメランコリー。それがわたしから出て行かない、わたしから出ない、出て行かない。

でも もし彼女が帰ってきたら、なんとすてきなことだろう！ 頭がおかしくなるほどすばらしいこと！ だって海に泳いでいる魚たちの数よりも もっとたくさんのキスを わたしは彼女に上げるだろう、彼女の口に。

わたしの両腕のなかで なんども抱きしめる。百万の抱擁でなければならぬ。こんなふうに抱きしめて、こんなふうにくっついて、こんなふうに黙って、抱擁とキスと愛撫は かぎりなく。

それは こんなことを終わらせるため、あなたがわたしなしで生きてるなんて。わたしはこのようなことは もういやだ、あなたがわたしから遠いなんて。わたしたちは このようなことはやめよう、あなたがわたしなしで生きてるなんて。

5. オサーニャの歌声

Canto de Ossanha

作曲：バーデン・パウエル Baden Powell

オサーニャは、カンドブレ（ブラジル化したアフリカ宗教）のオリシャー（神＝精霊）のひとりです。オリシャーは、カトリックの神や聖人、先住民の精霊と合体して、なかなか複雑な存在です。オサーニャは森や草のオリシャーで、この曲の場合は、先住民の森の魔物と合体して、歌声で人をたぶらかす女性の姿のようです。

ヴィニーシウスはカンドブレの司祭の資格を授けられています。というより、生まれつきもっているものらしいですが。

「わたしは与える」という男は 与えない、ほんとに与える男は 言わないのだから。「わたしは行く」という男は 行かない、行ったときは もう行きたくなかったのだから。「わたしはそうだ」という男は そうではない、ほんとにそうである人は「そうでない」のだから。「わたしは いる」という男は いない、だれも 望むときには いないものだから。

裏切り者のオサーニャの歌に 落ちてしまう男は あわれなもの。愛の魔術の後ろから ついていく男は あわれなもの。

行く 行く 行く 行く——わたしは行かない

友よ あなたに祝福あれ、シャンゴ（雷の神）があなたに伝えろと わたしに命じた——それがオサーニャの歌だったら行くな、たくさん後悔することになる。あなたのオリシャー（精霊）に聞いてごらん、痛む愛だけが 良いもの。

行く 行く 行く 行く——愛する。行く 行く——くるしむ。行く 行く——泣く。行く 行く——言う。

わたしは行くような人間ではない、過ぎてしまったひとつの愛の 悲しみを忘れる話をしながら。

いや、わたしが行くとしたら ただ 星がひとつ現れるのを見に行くためだけ、新しい愛の朝に。

6. フォルモーザ

Formosa

作曲：バーデン・パウエル Baden Powell

題名は「美しい女性」という意味ですが、この曲では、ある女性への呼びかけの愛称です。ヴィニーシウスとバーデンが旅行中、へんびな町で、ホテルもなく、駅前の酒場で、朝の列車を待っているときにつくったサンバだそうです。やはり列車待ちで徹夜していた、肥ったかわいい女性に捧げたとのこと。

フォルモーザ、そんなことをしないで。愛情は悪者ではありません。こばむ女性は なんにも知らないんですよ。なにかひとつ欠けているんです、その心の中に。

人は生まれ 人は育ち 人は愛することをのぞむ。こばむ女は こばむべきでないことを こばんでいる。

人はぶつかり 人は身をあずけ 人は死ぬことをのぞむ。だれにも 良いものがなくなってしまう、悩むことがなかったら。

7. みんなが あなたと同じだったら

Se todos fossem iguais a você

作曲：トム・ジョビン Tom Jobim

ジョビン＝ヴィニーシウスの最初の作品集におさめられていた曲です。

あなたの人生は行く、平和と愛でできた その道を。あなたの人生は 愛のひとつの美しい歌。あなたの両腕を開いてうたいなさい、最後の希望を——平和のうちに愛するという 神々しい希望を。

もし みんながあなたと同じだったら、生きることはなんとすばらしいことか。空気に浮かぶひとつの歌、うたっているひとりの女、うたっているひとつの街。ほほえんでいる、うたっている、ほしがっている、愛の美しさを。

太陽のように、花のように、光のように。

嘘をつかず愛すること、悩みもせず。

真実が存在することだろう、だれにも見えない真実が。みんなが この世界で あなたと同じだったら。

真実が存在するだろう、だれにも見えない真実が。みんなが この世界で あなたと同じだったら。

●選曲・構成：峰 万里恵

●プログラム制作：高場 将美